



ハウスミカンの省エネ温度管理技術を開発

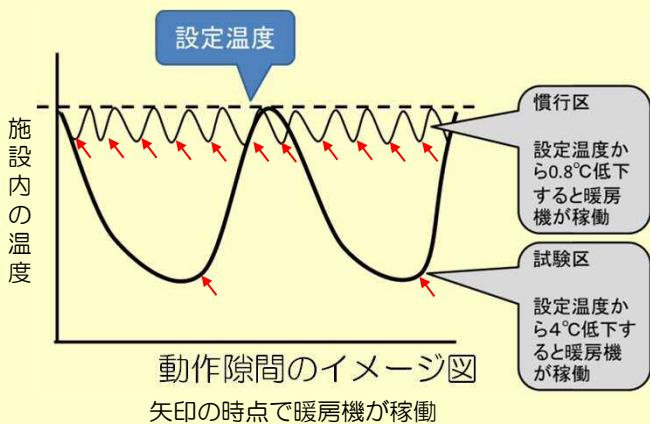
－ハウスミカンの新たな節油対策－

開発の背景・ニーズ

ハウスミカン栽培では気温の低い冬季に最低温度を24℃に保つ必要があるため、経営費に占める暖房費の割合が高くなります。園芸施設暖房用の重油価格は現在も高い水準にあり、ハウスミカン農家の経営を圧迫しています。そこで、果実品質や収量を落とすことなく重油使用量を削減できる効率的な温度管理技術の開発に取り組みました。

成果の内容

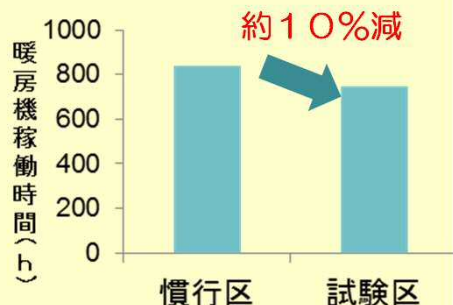
重油暖房機に外付けの温度制御器を取り付け、設定温度と実際に暖房機が稼働するまでの温度差（以下「動作隙間」と言う）を慣行の0.8℃から4℃に拡大し、節油効果と果実品質、収量への影響を4年間調査しました。その結果、加温期間中の暖房機稼働時間を平均で約10%削減できました。また、果実品質や収量への大きな影響は認められませんでした。



省エネ管理技術と慣行栽培の品質と収量 調査日：2015年7月

区	一果重 (g)	着色歩合	糖度 (Brix)	クエン酸 (g/100mL)	一樹当たり収量(kg)
試験区	87.8	6.5	14.0	1.25	90.3
慣行区	91.5	5.9	14.1	1.37	89.5

注) 着色歩合は0:無着色～10:完全着色で評価



愛知県農業への貢献

本技術は比較的少ないコストで節油効果が期待できるため、省エネ対策の選択肢を広げることができます。